

ねいの里 ホオホオニュース



2010年のアサギマダラ・マーキング

富山アサギマダラ調査グループ

今年で9年目を迎えた当グループの活動は、毎年県外で再捕獲があるなど、大きな成果をあげています。過去4年は次のとおりです。

回数	年	調査参加者 (登録者数)	マーキング数 (捕獲数)	県外で再捕獲 されたもの	再捕獲したもの (県外で放蝶)
第6回	2007年	38名	423	5	4頭
第7回	2008年	35名	530	7	1頭
第8回	2009年	40名	506	4	0
第9回	2010年	38名	425	7	0

1 今年の捕獲時期

今年の最も速い捕獲 6月 3日 魚津市片貝川 ♂ 藤条好夫さん
 今年の最終捕獲 9月 27日 黒部市僧ヶ岳林道 ♂ 藤条好夫さん

2 捕獲場所

今年は特異年で夏はあまり捕獲ができず、特に有峰周辺での捕獲が例年と比べて少なかったようです。その他では黒部市僧ヶ岳での捕獲が多く、医王山や白木峰などで捕獲放蝶しました。

3 有峰での放蝶イベント

2010年9月5日(日)、「有峰の自然を探る」の行事で、ジュニアナチュラリスト15名を含む24名で計画しましたが、事前調査でアサギマダラが異常に少なく自然観察会に変更されました。当日マーキングしたのは3個体のみでした。(昨年の行事では168個体にマーキング)

4 今年の再捕獲データ

(1) 県外で再捕獲されたもの(7頭)

9/15	黒部市僧ヶ岳	→	9/29	滋賀県長浜市	14日間	195 Km	藤条好夫さん
9/18	黒部市僧ヶ岳	→	10/17	兵庫県宝塚市	29日間	296 Km	藤条好夫さん
8/3	南砺市医王山	→	10/24	鹿児島県大島喜界町	82日間	1116 Km	山田一昭さん
9/11	富山市有峰	→	10/2	大阪府池田市五月山	21日間	259 Km	荒城重義さん
8/17	富山市八尾白木峰	→	10/31	鹿児島県大島喜界町	75日間	1121 Km	葉師正人さん
9/19	黒部市僧ヶ岳	→	10/21	福岡県太宰府	32日間	742 Km	藤条好夫さん
9/19	黒部市僧ヶ岳	→	10/21	高知県室戸市室戸岬	44日間	497 Km	藤条好夫さん

(2) 県外で放蝶され当グループが再捕獲したもの なし

5 特記事項

例年多く捕獲できる有峰周辺では著しく少なく、調査メンバーは苦戦続きでした、その中で藤条さんの奮闘が目立ち、半数に近い189頭を捕獲されました。再捕獲数も4頭と素晴らしい成果をあげられました。今年は再捕獲場所が1000Km以上離れた鹿児島県の喜界島で2頭の捕獲実績も大きな成果となりました。

(事務局：富山県自然博物館ねいの里 担当 二宮)

里の山にのびに

私のジュニアナチュラリスト活動

中学1年 碓井 光



私は鳥の写真を撮るのが好きで、それがきっかけでジュニアナチュラリストになりました。私は小さい時から自然のなかで遊ぶのが大好きで、よく動物や鳥の絵などを描いていました。小学校5年生の時のクリスマスプレゼントがデジカメでした。とてもうれしくて、家にいる2羽のセキセイインコの鳴いているところや、いたずらしているところ、水浴びしているところなどを撮影していました。それから、庭に遊びに来るスズメ達やヒヨドリ、メジロ、ウグイス、シジュウカラ、ジョウビタキ、キジバト、きじ達を撮影するようになって、次には環水公園でカワセミを撮るようになりました。その頃に新聞でジュニアナチュラリスト募集のことを見つけて、友達とジュニアナチュラリストになりました。

今年のジュニアナチュラリストの活動で一番思い出に残ったのは5月30日のバードウォッチングです。初めての参加でワクワクしながら、ヨシ原で野鳥観察をしました。オオヨシキリが大きな声を張り上げて鳴いていましたが、なかなか姿が見つかりません。誰かが見つけると「いた!」、飛ぶと「あー、飛んだ・・・」という声。カッコウも鳴いていましたが、一枚も写真が撮れませんでした。みんなで観察している間にはなかなかいい写真が撮れなかったため、その後2時間ほどカッコウの写真を撮ろうと粘りました。「カッコー、カッコー」と声がするところにそーっと近づいていくと、スーッと飛んでいき、追いかけるとまたスーッと元のところに戻ってくるのです。ずい分行ったり来たりしたのですが、とうとう遠くへと飛んで行ってしまったようなので、あきらめて車に戻ろうとしたら、すぐ近くで「ギョギョシ、ギョギョシ」という鳴き声がありました。よく見ると、そこにオオヨシキリがとまっていて、夢中で写真を撮りました。オオヨシキリが赤い大きな口を開けて鳴いているベストショットが撮れました。「やったあ」と思っていたら、「らいちょう」にその写真を載せていただいて、二度嬉しい、思い出に残る活動になりました。

これからも鳥のことをもっとよく知って、鳥の写真撮影や鳴き声を録音しに山に行ったり、様々なジュニアナチュラリストの活動をしていこうと思います。



写真の採れなかったカッコウ

活動をふりかえり

COP10 協賛事業 「能登のトキ今昔・テナガエビの保護増殖」 10月24日

COP10 協賛事業として、いこいの村磯波風に於いて、「能登のトキ今昔・テナガエビの保護増殖」行事が行われました。約60名の参加者があり、能登で最後までトキ保護活動を続けられた日本中国朱鷺保護協会名誉会長 村本義雄氏が、活動の経過や苦勞、現在も続けておられる、日中でのトキ共同保護活動を熱く語られ、参加者に大きな感銘を与えられました。講演終了後ねいの里の水生庭園に県内で生息地の少なくなったテナガエビの放流を行いました。 記：長谷川 寛

「間伐材でクラフト作り」 12月4日

レクチャールームで、どんぐりや木の実など自然の素材を使った「クラフト作り」に、大人と子供で14名が参加しました。満保先生のお手本を参考に、クリスマス用と来年の干支のうさぎを飾ったお正月クラフトを作りました。先月、炭焼の準備のお手伝いの日に間伐したエゴノキの材で作った台に、好きな木の実を接着剤でくっつけて仕上げます。どんぐりをウサギの頭と体にして、ヒマワリの種を二つ付けると、それがウサギ見えてくるから不思議です。参加者それぞれが個性豊かな作品に仕上がりました。最後に作品を並べて楽しみました。どんぐり類は、コナラ、ミズナラ、アベマキ、スダジイ、マテバシイなど他にもいろいろな形をした木の実が多くあり、何を作ろうかな?と考えるのも楽しいものです。植物の仕組みの不思議さに触れ、自然の恵みに感謝した楽しいひと時でした。 記：山口 由紀子



毎月第1土曜日が活動日です。

お気軽にねいの里へお越しください！ (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)
昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんでわいわい楽しく食べましょう。

2月6日(日)	3月13日(日)
○ 午前9時30分 ~ 13時 ・ 生き物との共生セミナー「動物の体を知る」 大型哺乳類の生態や体の仕組みなどを学びます。 講師：野生鳥獣共生管理員 間宮 寿頼 氏 ねいの里と共催行事です。	○ 午前9時 ~ 11時30分 ・ 春一番の生き物観察・総会 ホクリクサンショウオやヤマアカガエルなど春一番の生き物を観察します。 観察会終了後自然塾の会総会を行います。
参加者/定員なし	参加者/定員なし

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

ねいの里行事予定

1月4日(火) ~ 6日(木)	2月6日(日)
○ 午前9時 ~ 17時 ・ 春の七草を愛でる(七草の頒布) 頒布価格は200円/セットです。	○ 午前9時30分 ~ 13時 ・ 生き物との共生セミナー「動物の体を知る」 自然塾の会と共催行事です。
頒布数 200セット (事前申し込み)	定員 なし (事前申し込み)

参加者希望者は、ねいの里までお申し込み下さい。

■ 特別展示

- 12月13日 ~ 1月16日 春の七草実物展
- 12月17日 ~ 3月31日 ネイチャーフォト展 自然塾の会写真展

■ お願い ■

- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラルリスト駐車場を利用する事が出来ます。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ふくろう通信

第20号
2011年1月1日
生き物ふれあい自然塾

新年あけましておめでとうございます。ねいの里今年もよろしくお祈りします。



今日のふくろう先生は

佐伯 克美さん

富山県自然解説員・立山カルデラ解説員

クマ、クマ、クマ...



私はクマに脅されたことがある。2003年6月29日、極楽坂山の林道を友人と2人で歩いていた時。数m先の崖の上に、クマが両手をあげて立ち上がっていた。あきらかに私を威嚇している。静かに後ずさりしたら、クマは手をおろした。遠ざかる後姿にコロコロの子グマが2頭まつわりついているのが見えた。

二度目は、2009年7月5日、魚津市桃山運動公園近くの林道で、夫と2人でウォーキングをしていたら、クマが前を歩いている。子グマにしては大きいし、親グマにしては小さいし、と思っているうちに、谷側のヤブへ消えた。ほっとして歩き始めたら、数メートル先の山側から大きなクマがぬっと現れる。クマは一瞬、私の方をみて立ち止まった。私はなんでもないという顔をする。クマもフンという感じで子グマと同じヤブに消えた。私もクマもちょっと見栄を張った感じではある。この時の子グマは2年目の子どもで、まもなく親別れする頃であった。食べ物のとりかたを親からしっかり習ってくれよと思ったものである。私を威嚇したクマも、フンと見栄を張ったクマも、山に豊富な食べ物がある初夏で、彼らの生活圏の中であった。敵意がなければ、人間などどうでもよかったのだろう。

ところで、2010年の秋は、山に木の実が不足した。お腹をすかせたクマは、やむを得ず平地に下りてきて、あちこちで人間とトラブルになった。魚津では、4人もの人が自分の畑や庭でクマに背後から襲われている。撃たれたクマもおれば、逃げおおせたクマもいる。

11月11日、家の周りの農道でクマのウンチ発見。柿のかけらが一杯入っている。まだ魚津の山にクマがいたのだ。ドキドキしながら見回すと、柿の枝が折られ、実は一個も残っていない。下には食べかすが散乱し、ウンチもしっかりある。よくみると、食べつくされたのは富有柿だけ。横の渋柿は食べてない。田んぼの先に我が家が丸見えであった。

続く11月17日、魚津の古鹿熊林道を角川源流近くまでウォーキングにいった。昼近くなって角川ダムまで戻ったら、なんと林道の真ん中に子グマが一頭。親が近くにいる気配はなかった。まだ1年目の子グマである。冬を無事にすごせるかどうか。

クマと人間の住み分けは、とても微妙でむづかしいことだなあと考えた。



歩き去った親グマ

富有柿の下のクマウンチ



親とはぐれた子グマ